



くりしま

《本園の教育目標》

- 仲良くできる子ども ○元気な子ども
- 心の豊かな子ども ○努力する子ども
- 体を鍛える子ども

[《栗島幼稚園ホームページ》](#)
[栗島幼稚園](#)
[検索](#)

『 しっかり、のんびり ～「灼熱化・暴風雨化・コロナ禍」の備えと多様な生き方～ 』

園長 矢田 泰久



8月17日静岡県浜松市では国内史上最高気温と並ぶ41.1度を観測しました。海外では米国カリフォルニア州デスバレーで8月としては世界史上最高となる54.4度を観測しました。さらに、温暖化による気候変動で地球の灼熱化は持続期間が長くなっています。保護者の皆様の日々の大変さも想像できます。



<8月1日 ヒマワリが満開>

コロナ禍で夏休みを縮減し、8月24日(月)から新学期をスタートさせました。この間大きな事故等の連絡がなく安心しましたが、早々から最高気温が32度から35度と高温で過酷でした。体調を崩した園児も一部おりました。体温調節機能が未発達 of 幼児や衰えた高齢者には命にかかわる暑さ対策が大きな課題です。<食べちゃおう>



もはや、風鈴の音や金魚鉢の金魚を見て涼を感じる風情は失われつつあります。セミの音や打ち水さえも暑さを助長させています。園では臨機応変にマスク着用、また引き続き直射を避けさせ、体温を下げるための対策(冷房、水分補給、休息、水帽子など)を取りながら、しっかりと教育・保育にあたっています。

さて、9月になりました。保育も平常となり未就園児教室も始まりました。暑さは続いています。夕暮れは早まり午後6時半には暗くなってきました。セミの音も収まり、他方秋の虫の音がにぎやかになってきました。花壇に気高く咲いた大輪のヒマワリも今は枯れ始めました。年中・年長組の鉢の成長はいかがでしたでしょうか。花を咲かせていますでしょうか。



<8月18日 ほし組 水遊び、きもちいい!!>



また、本日は親子避難訓練にご協力ありがとうございました。地震・台風等の防災意識と感染症対策を踏まえた行動指針が、今求められています。保護者の皆様、地域関係者の皆様には多様なご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

【お知らせ】

- 9月1日付け、年長ひまわり組に女兒1名、年少たんぽぽ組に女兒1名が入園されました。一日も早く園生活になれますことを願います。
- 藤原義彦先生(体操講師)は現在病氣加療中です。快方をお祈り申し上げますとともに、体操及びスポーツクラブは、当面の間休止させていただきます。

本園では、令和2年5月に「感染症予防ガイドライン（新型コロナウイルス感染症）」を策定し、新型コロナウイルス感染症対策を行っています。以下、目次の内容をご紹介します。例えば、行事「運動会」は3密の観点から中止しますが、その教育的な意義（目的）を踏まえ、学年別に運動発表会を実施します。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

【感染症予防ガイドライン（新型コロナウイルス感染症）】（栗島幼稚園）

目次 ○本ガイドラインについて ○感染症対策に関する基本的な考え方

I 幼稚園編

- 1 幼稚園教育の特性、2 園児及び保護者の感染症予防策、3 教職員の健康管理、4 登園
- 5 登園の判断、6 保育環境、7 保育内容、8 昼食、9 降園、10 清掃、11 行事
- 12 預かり保育、13 園バスの利用、14 感染者、濃厚接触者等に対する偏見や差別
- 15 その他、16 幼稚園の再開スケジュール

II 臨時休業編

- 1 感染者が出た場合
- 2 濃厚接触者を把握した場合(同居家族が感染した場合など)
- 3 都・区内感染者の発生状況を踏まえた措置

ところで、ベストセラー「ざんねんないきもの事典」を監修された今泉忠明さんは、ヒトの進化でざんねんなことについて、次のように話されています。

- 練習しないと泳げない 多くの動物は訓練なしに泳げますが、人間は二足歩行になったため、体に対して首がまっすぐなるので水面に浮いたとき頭を上げないと息ができない。
- 暗闇が怖い 脳の著しい発達により想像力が豊かになり、情報の多くを目（視覚）で得ることから、暗くなると不安になってしまう。夏の風物詩、お化け屋敷は怖いですね。
- よく転ぶ 人間の頭の重さは体重の8分の1です。二足歩行になったことで頭が重く重心が高くなった分、転びやすくなります。特に今の子は転んでも手が先によくでません。

さらに、人間は特有の欲のために、必要以上にがんばり、のんびりとしたゆるい多様な生き方ができないとのことです。そのため、・人に厳しく、さぼっている人を見るとついイライラしてしまう。・自分の思い通りにならないとついイライラしてしまう。そう考えると、例えばコロナ感染者等に自己責任と厳しい態度をとり、時には差別意識を助長してしまうことが理解できます。

そこで、ヒトよりも前から生きている先人？生き物の知恵から学ぶことは大切だと思います。イソップ寓話「セミとアリ」（有名なのは「アリとキリギリス」）に登場するアリは働き者として描かれています。しかし、人間のように群れで暮らし縦社会を組織するアリには、研究者によりますと『働きアリの法則』（2:6:2の理論）があります。

よく働くアリは何と全体の2割で、すべての食糧をせっせと集めます。他の6割はそれなりに働き、時にはさぼり、残りの2割は何と全然働かずさぼっている？そうです。でもそこには理由があり、何らかの有事の際に普段働かないアリは逃げて生き延び、種を絶えさせないということです。まさに、みんなすべてががんばらず、ゆっくり過ごす者を認める多様性がアリの社会にあるそうです。しっかりと食料対策を計りながらも、他方種の存続のためにのんびりやることも認めるアリの社会組織。その多様性に生きる術のヒントがありそうです。

結びに、9月は雨も多い季節ですが、外遊び、体を動かすにはよい頃です。教員も園内研修で、その大切さや指導について学びます。子どもたちの願い、新型コロナウイルス感染症の終息を祈りますとともに、日々の教育・保育活動の充実にしっかり努めてまいります。